

ここに注目！ 1店1安心事業や防災訓練、救命講習会など、
商店街を挙げて安全安心事業に取り組んでいる。



ポイント

「地域に愛される商店街・子育てにやさしい商店街」を目指した活動を推進し、イベント事業であるオズフェスタの実施、デジタルサイネージや携帯メルマガ等による情報発信、防犯カメラの設置等、様々な先進的な取組を進めてきており、その活動は地域において高く評価されている。

[商店街概要及び取組の背景]

求められる地域コミュニティの創出

本商店街は、東急東横線元住吉駅東口周辺に位置する、昭和25年頃から続く歴史のある商店街であり、平成3年に法人化し、現在に至っている。

川崎市の中でも最も人口が増加している中原区に位置し、主な商圈は最寄り駅である元住吉駅周辺であり、隣駅の武蔵小杉駅周辺では大規模開発が進み、大型の商業施設も開業している。

また、東日本震災直後の「オズフェスタ」におけるアンケートで、商店街への期待について調査したところ、「商品の確保」、「災害対策」、「情報発信」などが挙げられたため、大型商業施設にはない「地域コミュニティの創出」、集客を購買に結び付ける「情報発信」に加えて、「安全安心への対策」に力を入れることとした。

[取組の概要・効果]

Plan・Do

商店街活動指針を作成し、多彩な情報発信

まず、活動の方向性を明確にする「商店街活動指針」を作成し、会員への配布、非会員の加盟促進に役立てた。また、イベント等事業では近隣学校と連携し、地域コミュニティの核として活躍するとともに、携帯メルマガ、twitter によるクーポン券の発行や、安全安心事業として「一店一安心運動」、「ラジオ、懐中電灯」の配



商店街入り口のゲート

備、「市民救命講習会」の開催、町会との共同での「防災訓練」の実施、小学校、慶應義塾大学と連携した「まちなか安全教室」の実施、それらをまとめた「安全ぶっく」の発行等、イベント事業や情報発信事業と連携している。

[効果の評価と改善策の実施等]

Check・Action

地域に認められた先進的モデル商店街

これらの取組が川崎市の「商店街魅力アップ支援事業」で最高評価であるA評価に2年連続で選定されるとともに、「かながわ商店街大賞」の準大賞を獲得するなど、地域における先進的なモデル商店街であるとの評価を受けている。また、「防災訓練」や「まちなか安全教室」は、特に地域や学校からの評判が大変良く、継続した実施が希望され、商店街の存在感をますます強くしている。

[実施体制]

地域住民や大学との連携による取組

平成22年から平成25年まで、川崎市と川崎商工会議所が連携し、地域活性のための専門家を派遣する「エリア・プロデュース事業」の対象商店街に認定されているとともに、事業実施やプランの策定に当たっては、慶応義塾大学教授、研究員や学生とも連携している。

また、広報誌やイベントのチラシ作成に当たっては、近隣住民による市民記者「オズ記者クラブ」が活躍。商店街の公式キャラクター「おずっちょ」の作成に当たっては、商店街の近隣にお住まいの主婦であるイラストレーターが担当するなど、地域密着の取組を行っている。

基本データ

所在地：神奈川県川崎市中原区木月

会員数：120名

店舗数：135店舗

関連URL：<http://www.oz-dori.com/>



「おずっちょ」に見入る子供たち

キーパーソン

モトスミ・オズ通り商店街振興組合



左: 理事長
柳沢 正高



右: 副理事長
中野 勝久

強い味方

商店街活動に携わり最初に感じたことは、商店街としてのテーマ・アイデンティティーがはっきりしていないことでした。そのような折に慶応義塾大学のボランティアサークルと出会い、「地域貢献と商店街活性化」への協力を同意してもらい共に行動する事になりました。商店街では、ボランティア活動はそうそう反対されることは無いだろうと考えた理由(わけ)です。

「異世代間交流」「子育て支援」を商店街活動の中にも取り入れていくかが問題で、サークルの学生達には強要は出来ませんので、どう動いてもらうかが鍵でした。学生から商学部の教授にコンタクトを取り、協力を得ることが出来るようになったのは3年後でした。教授のゼミ・研究室・教室の学生達も授業という枠の中であっても、様々なアンケート・インタビュー等を通じてしっかりと商店街の中に入り、実践力を持つ強い協力

者となりました。「3・11」の災害後、被災地支援として商店街が出来ることを考える中で始めた一つに「小学生の安全教室」(学校・家庭以外の場所での災害対処法)がありました。そこで学生達はしっかりとシナリオを作成、翌年からはマニュアルとして活用することができ、小学校側からも高い評価を頂きました。メンバーが減少し活動ができなくなってしまったボランティアサークルから大学の学部の教室・研究室の協力へ移行できたことが現在の商店街の取組の大きな原動力となっています。

今日と明日の商店街

現在どこの商店街においても課題は似通ったものであり、中々解決策が浮かんでこないのが現状です。当商店街における一番の問題は、個店の後継者にあります。駅前商店街ですので人通りはありますし、一応ハード面においても整備が進んでいるお蔭で店舗の賃料も下がる事はありません。後継店舗は主に飲食店やサービス業のチェーン店となっており、その結果商店街の組合活動に若手理事の入会が期待できず、現有勢力で賄わざるを得ません。さらに業種が揃わない、買い物に不便な商店街になりつつあります。この問題の解決策を見つけることこそ、これからの展望につながると考えています。